

が ん ば

島三小育友会報
発 行 部
広 報 部

〔第74号〕



「赤おにと青おにのタンゴ」 歌・器楽・おどり 大熱演

(11月19日第4回市民音楽祭から、5年生全員によるオペレッタ)

歳末雑感

江崎勝利

今年も、あと数日で新しい年を迎える。十二支でいえば、猪突猛進といわれる「いのしし」から、ちよろちよるとすばしこく走る「ねずみ」に替わる。十二支にはいろいろと深い意味があるが、現代人は自分に都合よく解釈し、それを糧として意義ある生活を送っている。まことに「考える」という機能を持った人間は幸せ者である。

になつたそうなのねずみがうしの背に乗っていたということを考えると、それに気づかないうしもうしろしいが、ずるがしこいねずみだなあとと思う。しかし、かしいことは確かだろう。「ねずみの嫁入り」という話があるが、結局世の中で一番強いのはねずみということになる。

ところで、ねずみは十二支では一番めの動物。天の神様が十二支をお決めになるとき、それぞれの動物が「われこそは」と、示されたところに集まってきた。うしが一番に到着したと思った瞬間、うしの背に乗っていたねずみが、パッと飛び込んで一番めになったとか。猪突猛進で名のうれたいのししが、十二番めというのも、速さから考えると矛盾を感じるが、それはそれは遠い道のりで、うしの歩みは遅くとも……の力が発揮されたのであろう。ねこは、日だまりで寝ていたのだからか、遅れて十二支には顔を連ねていない。それで、ねこは生ねずみをうらみ、ねこはねずみをとるという決定的な運命

と、猛進まではいかなかったにしても、猪突した子どもは相当数に及ぶ。ちよろちよろすばしこく……というねずみにあやかれれば、来年は大変なことになるそうな予感がする。悪を転じて善となす心意気を強く望んでやまない次第である。「あすのことを言えば天井で鼠が笑う」ということわざがあるが、笑われても考えなければならぬことである。「窮鼠猫を噛む」のことわざもある。よかれかしと子どもを追いつめると、逆に反抗されることのたとえである。知恵をしぼり、根気強く、何事にも善の気持ちで対応し、「鞭を惜しめば子をそこなう」の教訓も銘記したいものである。

県P大会に参加して

三小育友会をおもう

育友会長 成瀬博功

特別委員会



今年の長崎県下全小中学校の育友会（PTA）研究大会は、十一月十九日・二十日にわたり、佐世保市で開催されました。当日は三千名に及ぶ参加でやや多きに過ぎる感じを持たせたものの、やはり育友会は今日から明日へ、しっかりと継続されてゆくなあとと思わせるものがありました。

三小からは六名（三名女性）と学校より一名の参加です。さて、今年の大会のスローガンは「参加し、学習し、実践するPTAの推進」でした。大きな大会ですから、どうしても形式に流れがちなどころも目立ちますが、そうした中でも「いま、育友会は、何をどう、やるか」がお互い模索されています。

この大会に参加して、他の育友会が何に着眼し、どんな方法で、どうした流れを作ろうとしているかが、興味のあるところでした。いくつかの収穫もありましたが、私達に

- ① 先生方にもおんぶされたい事務局を研究する。
 - ② 総務特別委員会
 - ③ 父親の参加はこのままで良いのかと研究する。
- ……父親参加特別委員会
小規模の町内と大きくなり過ぎた町内間の問題を研究する……子供会規模

は自信がわきました。今日取り組んでいる問題を着実にやればいいという自信です。私達の基本は、特定の役員による育友会ではなく、みんな動き、参加する育友会です。三小は今年、この事をもっと重要にしています。

三小は、一〇八年の歴史を持つています。長すぎるというのではなく、その時間の長さに見過ごしてはいけないと思うのです。今年常任委員会を中心に、当面する三小育友会の問題を手がけ、解決しようと三つの特別委員会をつくり討議を進めています。



南下川尻町内にお世話になって、早くも十年が過ぎました。当時私の家では、長女が誕生したばかりで、育友会活動そのものさえも、全く解らない時に、少年ソフトボールの指導員を依頼されました。一応は、おことわりしたのですが、熱心な会員の皆様の心にうたれ、又、スポーツの中でも、特にソフトボールが好きで、お引き受け致しました。

町内だより (5) 南下川尻町 育友会活動に参加して

高見利則

その内私の子どもも、一年生になり、本格的に育友会活動に参加するようになりました。南下川尻育友会の父兄の方々は、大変協力的で年間行事も、スムーズに行われております。他の育友会と異なるところは、三小の活動と同じく、体育部・学習部・生活部を各二名ずつで分担し、三役さんの手助けを致しております。

年月の流れは早いもので、



最初に指導をした子ども達は、成人式を終え、社会人として活躍しているようです。会えばやはり、一緒に汗を流した頃がなつかしいのか、声をかけてくれます。そんな子どもたちをみて、指導員をひき受けてよかったなあ……と思います。

私の子どもも現在、二年生と五年生がおりますので、これからも育友会、そして、元気な子ども達のために、まだまだ、頑張りたいと思います。



情障教育

体験発表より

去る十一月十七日、島原市で開催されました、第九回長崎県情緒障害教育研究発表大会で、島三小情緒障害児学級の保護者・釘田喜和子さんが体験発表をされました。

釘田大輔君は小学三年生。目のクリクリした可愛い男の子です。でも、自閉症児です。これまでに、ずいぶんいろいろな悩みや苦労があったことでしょう。

この体験発表でも、それらのことが言葉のはしほしに感じられ、参会者は、皆、大きな感動を覚ええました。
発表は二十分にわたるものでしたが、その要旨をご紹介します。(大隅謙一郎)

発表内容

現在小学校三年生の我が家の次男、大輔は自閉症です。幼い頃は、夜泣きがひどく、昼間は言葉が全然出ないため、自分が思うがままにならないと座り込んだり、ひっくり返ってギイギイ泣くことが毎日のようでした。言葉も出ず、上の二人とまったく違う次男

でしたが、それでも「よほどこの子はカンの強い子なんだ」といわれると、その気になり、「どうかあつたら顔がこんなしつかりしていいない」という母の言葉に、内心不安からにげ出したい気持ちになり、その言葉が救いにさえ思われま

した。そういう安らぎの言葉も空しく、病院での結果は自閉症だと聞かされ、重い心の負担と子供に振り回されている時、子供が不びんに思え、私自身も心身共に疲れ果て、生きる希望さえ失い、薬局の前をウロウロしたり、あ

る時は鉄道の様子をうかがったりしたことが走馬燈のように思い出されます。その弱い母親も子供の一つ一つの成長の段階での苦難とのぶつかりあいの中からもどうにか立ち直り、第三小学校の情緒障害児学級の三年生として成長させていたできました。自閉症児は偏食がはげしいと聞いておりました

でも、温食を食べるから、牛乳とパンを食べさせることを、試みては」との指導を受け、その日から、担任の先生へもお願ひし、家でも食事の改善に、取り組みました。

いよいよメニューを決め夕食の準備です。とにかく食べる物が少ないだけに、何から試みたらいいのか私自身が困りました。まずは生野菜に挑戦しました。そしてその日から大輔の大好きなノリ、ふりかけを家におかないことになりました。豆腐を買わない、

玉ネギ人参をいっぱい入れました。おみそ汁にもかぼちゃ、玉ネギを入れました。そのハインバーグを見て大輔がびっくりにしてしまいました。私自身もこんなに真赤になるとは思

「わが子大輔」

釘田 喜和子

「さま」と言いましたが、ここで私が弱気を出して妥協したら、せつかくの試みが台無しになると思ひ、とにかくねばりました。一口入れてはゲイと吐き出す始末です。食卓の横には洗面器、チリ紙を山ほど積んでの食事です。大輔も

吐きながら泣きながら懸命です。真つ青な大輔を見て、こんな酷な母親がいるだろうかと思ひがとおそつてきて、又、そうしなければならぬ親のつらさが涙となって流れます。親と子の泣きながらの根氣くらべです。キャベツのせ

ん切り、ハンバーグ、おみそ汁と、どうにか泣かなくなりりましたが、吐いた量もずいぶんでした。二時間かかっていた食事でした。その日は夕食が全然出来ません。辛い思いをしなが

た。今でもいろんな嫌いな物はありますが、しかし、食べさせるその心を見抜いてか、「食べきらん食べきらん」といいますが、「食べんといけん」といいますと、量をへらなりしました。

今、大輔はまだ健康だけが頼りの子供です。人様から見ると余程しつけの悪い子供だと度々お聞きします。現在、簡単なことでは人の言うことは理解出来ませんが、自分自身で判断することはむ

ずかしく、困難な問題にもぶつかることもないし、どんなに楽だろうと思うことがありますが、子供は裏からでも出ていきます。どんな子供であらうとも子供に、監獄のようなまねごとを母親としてあまりにもできかねます。この子の成長を願うならば、信じて見守る外はありません。これから先、またいろんな問題に直面することでしよう。でも決してくじけず、親子で歩み続けていこうと思っております。

あなたの子どもさんは

どうでしようか？

六年生アンケートから

六年担任

この調査は、現在の六年生を対象に、今後の指導の資料とするため、先月行なったものです。

調査項目は、集団生活を送るうえで守るべきごく基本的なことがらの中から、指導が徹底していないものを選んで取りあげました。ですから、結果については、ある程度の子想はできていました。しかし、表からおわかりのように価値高い考えを持っている健康な子どもが多い反面、そこまで育っていない子どもも多くいます。みなさんは、ここに現れた意識をみられて、どうお考えになりますか。

(表1) 意識調査

- (ア) 名札をつけることをどう思いますか。
 - (101人) ①いつもきちんとつけなければならぬ。
 - (60人) ②時々つけるのを忘れてもしたたがない。
 - (7人) ③つけるのを忘れても気にならない。
 - (8人) ④つける必要はないよう

- (イ) な気がする。チャイムの合図についてどう思いますか。
 - (74人) ①絶対守らなければならぬ。
 - (81人) ②少しぐらい守らなくてもいいだろう。
 - (9人) ③みんなが守らない時は守る必要はない。
 - (13人) ④チャイムがないと自由でよい。
- (ウ) 掃除についてどう思いますか。
 - (26人) ①いつもきれいにしようという考えで取りくむべきだ。
 - (10人) ②そうじは決められた仕事だからしなければならぬ。
 - (18人) ③なるべく人より仕事を少なくしようと思ってる。
 - (9人) ④みんながしない時は、自分もしないでよい。
 - (19人) ⑤そうじはないほうがよい。

- (エ) 朝自習についてどう思いますか。
 - (23人) ①自分から進んで取りくむことが大切だ。
 - (102人) ②決められているからきちんとすべきだ。
 - (27人) ③そんなに真剣にする必要はない。
 - (25人) ④朝自習はないほうがよい。
- (オ) 便所のスリッパの並べ方についてどう思いますか。
 - (49人) ①次の人がはきやすいように並べなければならぬ。
 - (45人) ②高学年だから並べないといけない。
 - (48人) ③おこられるから並べる。
 - (35人) ④並べるのはめんどくさい。
- (カ) きまりについてどう思いますか。
 - (67人) ①みんなが守らなくてもきちんと守るべきだ。
 - (59人) ②みんなが守らなければ自分も守らなくてよいだろう。
 - (39人) ③きまりによっては、守らなくてもよい。
 - (12人) ④守るのはばからしい。

(130人) (74%) 自転車の二人乗りをしないことがある。

(109人) (62%) ゲーム場でゲームをしたことがある。

(15人) (9%) 市外へ自転車で行ったことがある。

「他人のことを考える」そして、「規律」という、日本ではかつて、美德の一つとして国民教育のモットーであった。

津町子どもクラブ

部長 佐藤 よしえ



私たちが津町子どもクラブは、男子九名、女子十二名、計二十一名です。

おもな行事としては、年四回の廃品回収と夏休みに行なわれる一泊旅行です。今年は、観光ホテルでみんなと楽しく過ごしました。

廃品回収では、町内の空きビンや古雑誌などを集めて、きまった所に回収します。

みんな、いっしょけんめいするので、ただ一つ欠点があります。参加は、三年

たものが失われつつあるだけに考えさせられます。

特に、調査項目中すべて否定的に答えている子どもが数名いました。この子どもたちはどんな考えで、毎日を過ごしているのか心配です。学校は束縛するためのみ存在していると考えているのかもしれない。このような子どもたちにも、規律を守ることのさわやかさ、快さ、大切さを経験させようと考えています。

以上と、お母さんたちとで、いっしょにやりますが、高学年のがんばりが少したりしないようです。

廃品回収には、低学年はこられないので、高学年ががんばらなければならぬのに、低学年と同じようにいだらだらとしています。

これからの津町子どもクラブは、みんな力をあわせて、いっしょけんめいする町内にしていこうと思います。

「教育講演会を終えて」 望まれる父親の参加

教養部長 松尾正敏



十一月二十八日「教育講演会」を開催いたしました。
 「教育雑感」という演題で、江崎校長に講師としてお話をさせていただき無事終了することができました。お忙しいなか、多数出席された皆様方に対し心より感謝申し上げます。
 当日はできるだけ多くの人に出席してもらいたいと思ひ、学級部で計画されておりました授業参観日に合わせ、共催という形を取らせていただきました。忙しい時期でもあり、授業参観に見えられた方々がそのままお帰りになってしまふのではないかと、講演会への出席が少ないのではないかと大変心配しておりましたが、約一五〇人の出席者があり、三小視聴覚教室に用意した椅子が足りないほどでした。立ち席でお聞き下さった人達には、大変ご迷惑をおかけ致しましたが、私達主催者側にとっては、当初の予想人数をはるかに上回り、嬉しい誤算となりました。

一番重要な講師の人選に頭を痛めた訳ですが、教育の現場を實際に体験した人、教育に対する情熱のある人、話が一方通行にならない身近な人ということを考慮した時に、やはり校長先生をおいては他に無いということで一致しました。
 講演会では、先生の長い経験・体験をもとにして、身近な問題、子供の心理、成長過程、教育をとりまく環境、そして私達の親としての心構え等について、時折ユーモアを交え乍ら、解り易くまとめてお話をしていただき、大変有意義な一日でありました。
 講演を聞きながら自分自身が親として、もっと自覚を持つていかねければと感じたのは、私だけではなかつたらうと想像しております。
 限られた時間内の先生の講話でしたので、まだまだいろいろなことをもっと深く掘り下げて聞いてみたい気持ちがいっぱいあります。改めてその機会がきますことを期待しておきたいと思っております。

講演会の最後に、山下副会長の挨拶にもありましたように、今、私達の回りでは、母親・児童・教師個々では解決不能な問題が現実を生じて参りました。これに我々はどう対処していくのか、何から手をつけていけば良いのかを考へる時期が来ているのではないのでしょうか、幸い三学期には特別委員会にて、父親参観日が計画されているようですが、これを機会に、広くお父さん方に呼びかけて、積極的に参加してもらい、より良い環境作りのために、大きな輪を広げていただきたいと心より念じております。
 余談になりますが、育友会は単独の委員会、部会活動のみではなく、つながりや共通する部分があつたり、予算・日程などの都合がある場合は、大いに共同して事業を行なうて行けば、かなり効率の良い育友会活動ができるのではないかと思います。如何なものでしょうか。
 最後に、私達のために素晴らしいお話を下さった校長先生、そして自ら講演会のお世話、進行役までやっていただいた、森学級部長さんに厚くお礼申し上げます。
 有難うございました。

教師の目・子の目

一ねん たにぐちしほ
 十月二十一日きんよう日
 きょうがっこうからかえつてから、子犬のもらいてをさがしました。「いずみ」が、やつとうれました。ほかの三びきは、とうとううれませんでした。あしたもがんばりたいです。すいようには、ほけんじよにつれていきます。ちよつとかわいす。ちよつが、またきつとちびがうんでくれるでしよう。それをわたしはまっています。
 十月三十一日月よう日

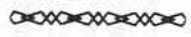
輝きが一つになつた

音楽専科
 「夕日が背中を押してくる……」もろくんの大きな声が舞台いっぱい響く。
 練習の時、断片的だった歌声が今日は続く。まっかにほてつた子どもたちの顔、顔。一五八名の生き生きとしたひとみが、私の手先できらきらゆれる。踊りに気がとられ、最後の練習まで指揮に集中できな

きょう学校ではんがえがりました。八はんのほんちよは、わたしです。ふくほんちよは、はひろたかくんです。あつめはかおぬさんで、わすれものをしらべるのは、ともかずくんです。がんばつてたのしいはんや、わすれものをしなはんをつくりたいです。
 十一月一日金よう日
 きょうピアノにきました。かえつてみるで「むさし」がないのでびっくりしました。わたしがピアノにりついているあいだに、まさひとくんがもらつてくれたそうです。「むさし」よかつたね。ほけんじよにはいかにいいよ。
 (につきの中から)

佐藤満恵
 つた子どもたちに、板倉先生が最後に送った言葉「歌っている時の君達の目の輝きは、最高にきれいだ。あしたは、その輝きを一つにして力いっばい歌って欲しい。」
 そして翌日、期待したひとみを私は見ることができた。全員で歌えた喜びは、今まで味わつたことのない、すがすがしい感動を私の胸に残した。

十一月二十三日(勤労感謝の日)、第二回正しい自転車乗り教室を開きましたところ、八十六名の参加者があり、会の進行もスムーズに運び、無事終了することができました。参加者を学年別に調べると次のようになります。



正しい自転車乗り教室 「盛会のうちに終る」

三年……二十六名
四年……十四名
五年……二十一名
六年……二十五名
町内別・学級別でアンバランスがみられたことは残念でした。
つきに、交通教室の概略を述べますと、

二、安全走行(三〇〇点)について実施しました。交通標識「十種」を実際に見せ、意味を書かせた結果、平均七十点で、満点を取った者が四名もいました。
安全走行では、動作が機敏

交通部長 岩 本 宏 三

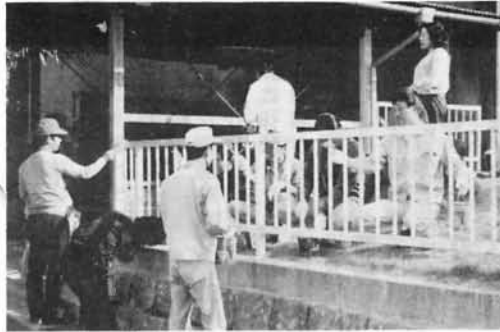
すことができ、喜ばしい限りでした。
最後になりましたが、会の開催にあたり、懇切丁寧にご指導下さいました指導員の方々をはじめ、進んで協力していただきました会員の皆様方に厚くお礼申し上げます。
なお来年度からは、内容の充実をはかると共に回数もふやし全員に受講させ、修了証がない者には乗せないなど強い方針で望みたいと思います。



遊具の化粧直し

環境部長 本多新市

環境部の二学期の行事として十一月十三日(日)校庭の運動遊具施設等のペンキ塗りを実施しました。心配していた天候もさいわい晴天に恵まれ作業も順調に進みました。時がたつにつれ、だんだんきれいになっていくのを見て、ハケの動きも早くなり無事予定どおり終了する事が出来ました。校長先生をはじめ諸先生方、それに各会員の皆様にはお忙しい折参加していただ



き本当にありがとうございます。
その他に、一年生の校舎の雨樋がつまっているとの事で、屋根に登ってみると、樹木の落葉が雨樋に、びっくりする程つまっていました。この落葉の撤去作業も行いました。何しろペンキ塗りもなれない作業で皆さん、手にはもちろんのこと、顔や髪にもペンキ塗りをして、作業終了後、笑いの種になりきれいになった遊具を見ながら満足した次第です。本当にごくろうさまでした。

町内対抗 バレーボール大会

体育部長 佐々木鈴江

スポーツの秋もたけなわの十月三十日(日)、育友会町内対抗バレーボール大会が、二中体育館・三小体育館に於いて開催されました。

回を増すたびに、バレーボール熱が高まり、当然ながら腕の方もレベルアップし、熱戦が繰り広げられました。

当日は大安吉日とかで、結婚式等への出席者が多く、選手確保に苦労されたチームもあったようですが「参加する事に意義あり」を完遂され、熱戦の中にも珍プレーあり、好プレーありで和気あいあいとした大会のうちに無事終了する事ができましたことを報告し、会員皆様のご協力に心より感謝致します。

(大会成績は次の通りです)

- A パート
 - 一位 下川尻
 - 二位 新山東 A
 - 三位 坂上
- B パート
 - 一位 崩山
 - 二位 湊町
 - 三位 新山西
- C パート
 - 一位 三小職員
 - 二位 廣馬場

編集後記

「がんば」第七十四号をおとどけます。
やがて、また、新しい年を迎えます。今年一年、会員の皆様にとつて、どんな年だったでしょうか。

これまでの「がんば」をながめてみますと、その年々に、色々な課題を持ちながら、先輩諸氏のご苦労の跡がよくうかがえます。

今年は、父親参観・子どもクラブなど、新しい課題が設定され、よりよいPTA活動を目指して努力されています。私たち広報部でも、会議の中で、子どもたちの問題について話し合うにつけ、親としてどんなことをやればよいのか、改めて考えさせられました。さらに、紙面の充実を図りながら、皆様と共に、良い方向が見つけられればと思います。
今後とも、会員各位のご協力をお願い致します。

- 二位 元舟津 白山
- 三位 靈南 湊新地

